

事例No.47 地域資産を活かしたICTによる商工業発展と地域活性化

事業所名 企業名	鈴鹿ビジネスツイッター研究会(SBTSG) 公式ホームページ：http://suzuka.com/sbtsg/				
所在地	鈴鹿市	従業員数	10名	産業分類	その他

【事例の詳細】

機能	サービス店舗の検索	使用 機器等	スマートフォン・タブレット・PC
取組 内容	<p>鈴鹿ビジネスツイッター研究会(SBTSG)は、有限会社マイドソフトの森通人社長を代表幹事として2010年に設立されました。会員は鈴鹿市の商工業者及び関係者を主体としており、設立当時はサービスが始まったばかりのツイッターや関連サービスを活用することで商工業発展と地域活性化を目指しました。</p> <p>当会では、鈴鹿市の資産であるイベント「F1日本グランプリ」「鈴鹿8時間耐久ロードレース」を通じて商工業発展と地域活性化を図る「Fツイ割」「8ツイ割」サービスを実施しています。これらのイベントの観戦チケットを協賛店舗に提示すると、様々な特典を得ることができるサービスで、スマートフォンやPCから公式ホームページにアクセスすれば協賛店と特典が検索でき、GPS機能を使って周辺の協賛店を探すこともできます。事業者の方は公式ホームページから無料で協賛できるようにしています。</p>		
導入 プロセス	<p>当時、鈴鹿市は多くの資産を持ちながら地域に十分活かされておらず、特に世界的に有名な鈴鹿サーキットでの「F1日本グランプリ」「鈴鹿8時間耐久ロードレース」はその代表といえました。これらのイベントに来てくれる観客は、鈴鹿サーキットだけを利用するケースが多かったため、観戦前に地元の店舗の良さやお得なサービスを知ってもらって、観戦前後に地元店舗を利用してもらえるような活動を始めました。</p> <p>利用者にはその時々利用者が増えているSNSなどのサービス（「Ustream（ユーストリーム）」「Foursquare（フォースクエア）」「ツイッター」「フェイスブック」など）を利用してサービスのPRを行いました。</p>		
成果 効果	<p>SNSなどのサービスを利用してPRを行った結果、多くの利用者を得ました。協賛店舗・サービスの募集には、鈴鹿商工会議所や講習会、講演会を通じて会員商工業者に呼び掛けるとともに、公式ホームページから無料で協賛できるようにすることで、鈴鹿商工会議所の会員以外からも多くの協賛を得ることができました。これらのサービスは現在も継続しており、資産を活かした商工業発展と地域活性化に貢献しています。研究会は、現在も新しいICT・IoT技術習得の為に不定期に勉強会を開催したり、ICT・IoT技術の実践を通して普及活動を行ったりしています。</p>		



【取組みの狙い】

企業ブランドの強化	品質向上	従業員の成長サポート
独自性・独創性の創造・強化	付加価値の創造・強化	労働環境の改善
商圏・販売チャネル・新規顧客の拡大・開拓	生産・業務効率の向上	勤怠管理の効率化
顧客満足度の向上	生産・業務プロセスの改善	その他
価値・品質の見える化	情報管理の効率化	